

「捨てられた生命をつなぐ～アニマルウェルフェアを考えた社会を目指して～」

大分県立久住高原農業高等学校3年 今村 都

大分県内でも有数の繁華街「大分市都町」。夜は沢山の人たちが賑わい、朝は通勤する人たちが行き交う場所。私はそんな街で育ちました。この街でよく見かける光景。それは、ネコたちの姿です。飼われているネコなのか、はたまた、捨てられたネコなのか。この子たちはどんな生活をしているのだろうと幼い頃から考えていました。

私は、動物が好きです。とりわけイヌやネコといった「愛玩動物」が大好きです。将来は動物に関わる仕事に就きたいという漠然とした夢がありました。しかし、ただ「動物が好き」では務まらない仕事であることに気づかされた出来事があります。

あれは、私が中学2年生のときの国語の授業。自由テーマを持ってインターネットなどで調べたことを発表する授業です。私は迷わず、「動物に関することを発表したい。」と思い調べ始めました。「イヌ・ネコ」と検索すると同時に、「収容並びに処分の状況」という文字が表示されました。当時のデータとして、2018年度の大分県の殺処分数はネコ、1,646匹、イヌ、207匹。殺処分されるイヌやネコはガス室に閉じ込められ、ボタン1つで二酸化炭素が部屋を充満。窒息により鳴き声をあげながら死んでいく。ガス室には壁を爪で引っ掻いたあとなどギリギリまでもがいたであろう残痕。生きたい。死にたくない。彼らの最後の抵抗が形として残っています。殺処分数を2023年度と比較すると大幅に減っているものの、処分される『命』があるという事実には大きなショックを受けたことを鮮明に覚えています。そして、これが私の将来の夢を確かなものにしました。

私は現在、久住高原農業高校の3年生になり、「畜産」を学んでいます。産業動物であるウシと向き合いながら知識・技術を高めています。さらに、うし部に入部し、和牛甲子園出場と上位入賞を目指し、2023年8月から「三輝」号の肥育を開始しました。畜産の授業を初めて受ける時、「家畜とペットの違いって何かな？」と先生から質問されたことを覚えています。なんとなくその違いは分かっていましたが、言葉が思い浮かびませんでした。先生は、「どっちも動物。命があるもの。その命が人によって決められて人の命をつなぐのが家畜や。ペットも、ある意味、人の命をつなぐものやけど、命に制限はない。その運命は飼い主次第。」家畜もペットもどちらも人間社会での役割に違いはあるけど、その命はどちらにしても人が左右させるんだということが分かった瞬間でした。

「アニマルウェルフェア」という言葉をよく耳にします。私はこの言葉の意味を「動物が幸せな生き方をするために自分たちがしっかりと考え、行動すること。」と自分なりに解釈しています。現在、肥育をしている「三輝」号の命は残り7ヶ月。愛情いっぱい育て上げることは私の責任であり使命です。一方で、イヌやネコの生きる尊厳とは何なのでしょう。愛玩動物の現状を知りたいと思い、先生に相談し、「おおいた動物愛護センター」

への見学が実現しました。現地で施設の案内や説明をしていただいたのは金城獣医師です。金城獣医師から「私たちは、ここに連れてこられたイヌやネコの幸せを常に考えています。イヌやネコの幸せは、ペットとして家庭で過ごすこと。譲渡会を毎週開いて里親を探しています。この施設の存在はイヌやネコのようなペットの生きる尊厳を守るためにあります。」力強い言葉でした。動物愛護センターでは、捨てられたペットや飼育困難な状況に置かれたペットなど、運び込まれるイヌやネコには様々な事情があることを改めて理解させられました。また、TNR活動「さくらネコプロジェクト」とよばれる野良猫の繁殖を防止するための去勢や避妊手術、安易な気持ちで飼育をさせないために、里親となる家族との話し合い、小学生を対象とした出前授業やペットのしつけ教室など幅広い活動が行われていました。「アニマルウェルフェア」を考えた社会をつくるためには、自分一人の力ではできない活動です。命あるものに対して、必要な知識と飼育する責任と使命を持つことの大切さについて深く考えさせられ、動物愛護センターの存在と意義の大きさを実感させられました。

残された高校生活、和牛甲子園出場に向けた取組はもちろん、動物愛護センターへの継続的な訪問を行い、イヌ・ネコの保護活動などのボランティアに参加して、知識を深めていきたいです。卒業後は、動物に関する専門学校に進学し、愛玩動物看護師の資格取得を目指します。そして、将来は大分県動物愛護センターに就職し、施設に来たイヌ・ネコと里親をつなぐ架け橋となり、殺処分されるイヌやネコを1匹でも多く救えるように頑張ります。

あの時のことが蘇ります。姿が見えなくなっても吠え続けていた捨てられたイヌ。飼い主を信頼していたでしょう。そんな愛くるしい子の元を去ったあなた。今、どんな気持ちですか。